

留学生が描いた「未来図」

— スピーチコンテストで優秀賞 —



2026年3月2日（日）、福山市「第33回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」において、本学の留学生2名が登壇しました。本コンテストでは、工学部機械システム工学科1年生のミャンマー出身留学生ヤティプーウィント（YATI PHOO PWINT）さんが、優秀賞（第2位）を受賞しました！また、経済学部国際経済学科の交換留学生、インドネシア出身のニ・プトゥ・リアナ・サリ（NI PUTU LIANA SARI）さんも出場し、実体験に基づく心に響くスピーチを披露しました。

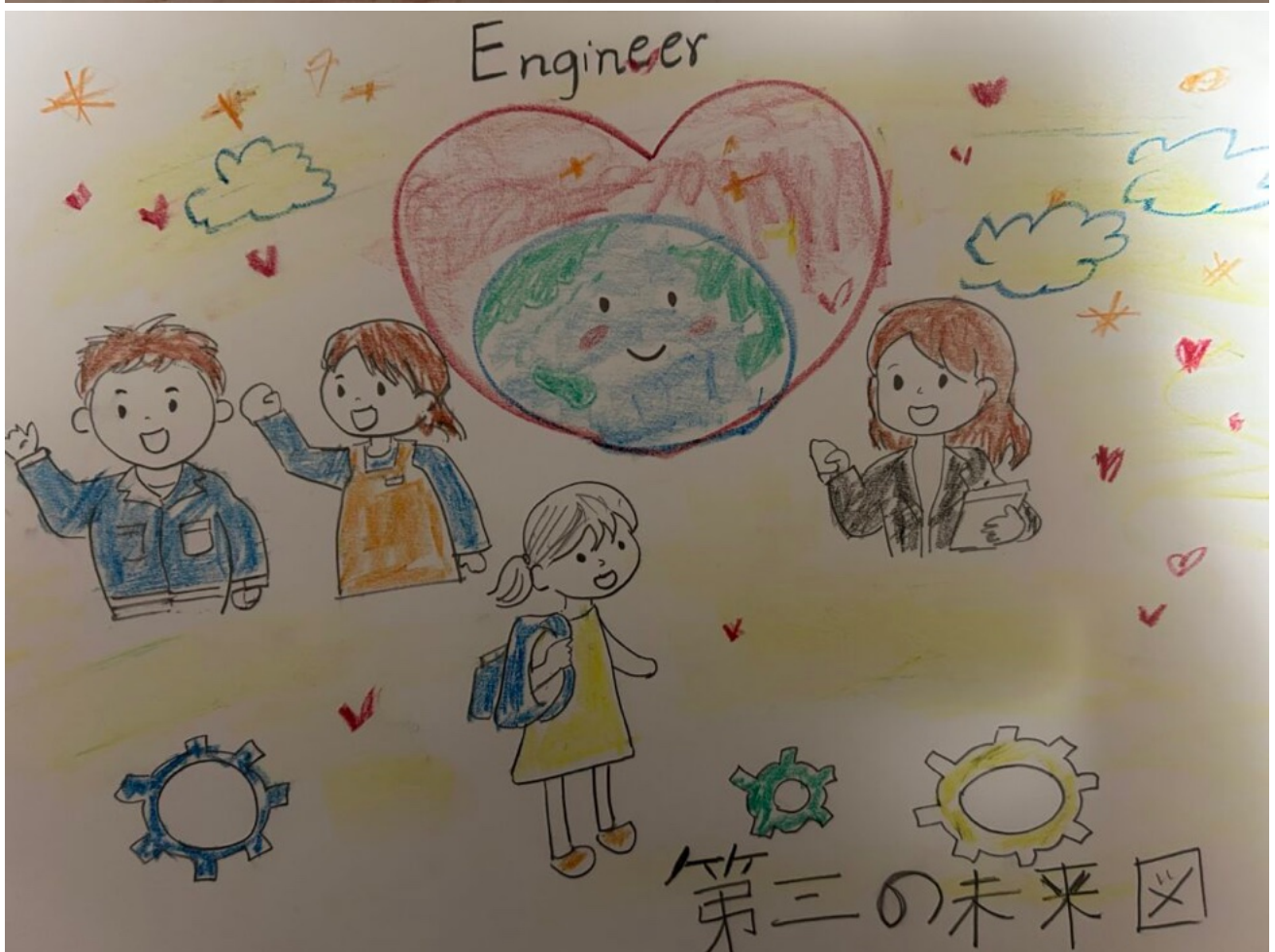


(前列右から3人目がヤティプーウィントさん、前列2列目右から5人目がニ・プトゥ・リアナ・サリさんです。二人とも本当によく頑張りました。)

ヤティさんの発表テーマは「留学で変わった私の未来図」。社会情勢の不安定な母国ミャンマーでは未来を思い描くことさえ難しかったこと、



日本留学という一筋の光が人生の転機となったこと、



そして努力を重ねる中で「社会に役立つ技術を学びたい」という明確な目標を見出した過程を、未来図を描いた4枚のボードを示しながら語りました。



エントリー番号 18 番という最後の発表者でしたが、それを逆手に取り、堂々とした態度と大きな声で発表。将来は機械工学の技術を生かし、ミャンマー、日本、そして世界の人々に貢献したいという力強いメッセージは、会場から大きな共感と応援を得ました。



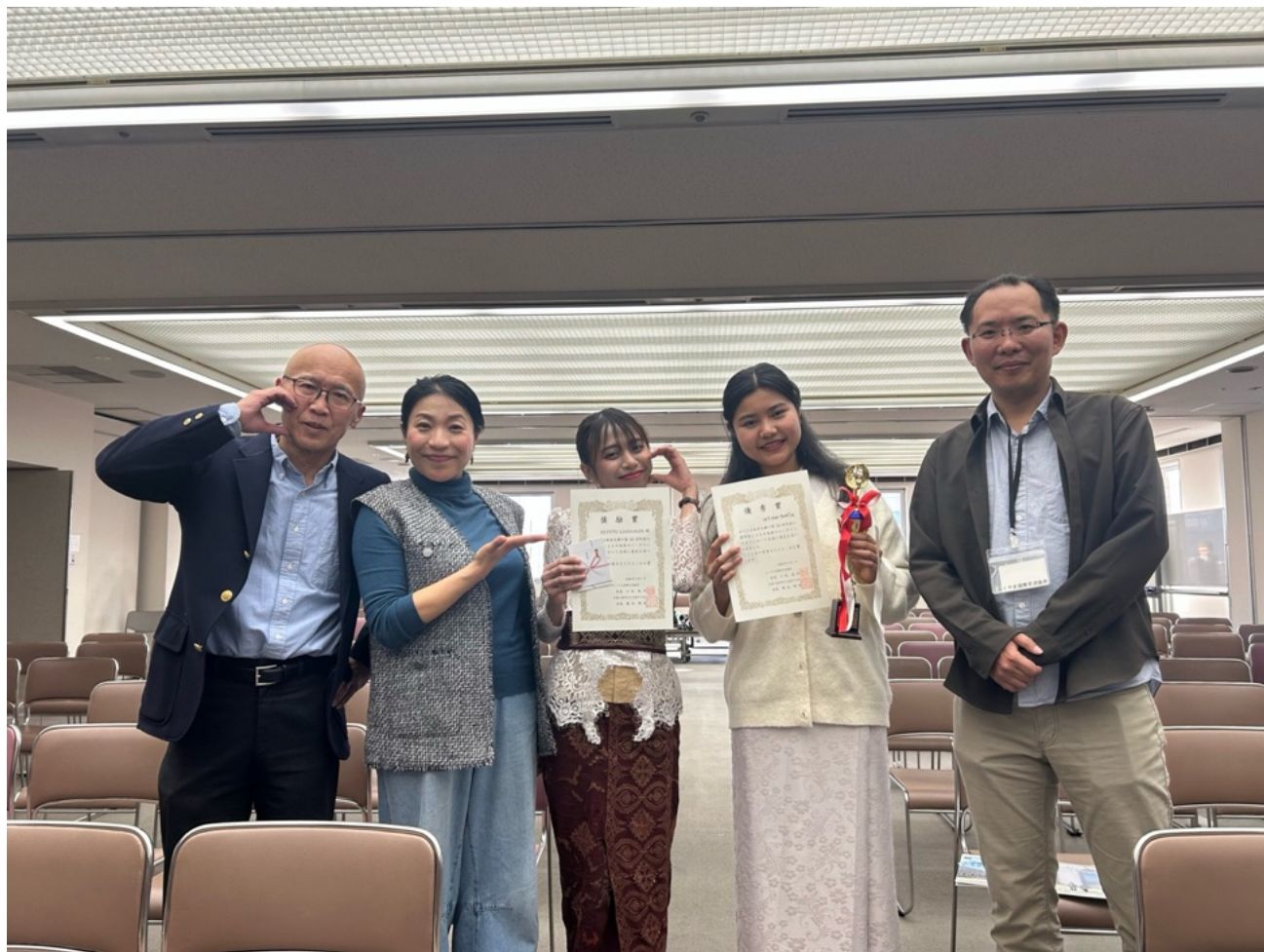


(写真右は足立教授、中央はリアナさん、左は足立教授の奥様。奥様はリアナさんを娘のように温かく見守っていただきました。)

また、昨年9月より半年間の交換留学で来日しているインドネシア・マハサラスワティ大学のリアナさんも出場しました。19歳で自己免疫疾患（SLE）を発症し、歩行困難となる可能性を告げられながらも夢を諦めず、日本留学を実現した自身の歩みを語る発表は、奨励賞を受賞し、多くの聴衆に勇気と感動を与えました。

半年間の留学生活を終え、スピーチコンテストの翌日に帰国したリアナさん。本番までの数日間は、経済学部・足立教授宅で温かく見守られながら練習に励み、楽しい思い出もできました。スピーチの中で語ってくれた「私の夢には翼があります。どこへでも私を連れて行ってくれると信じています。」という言葉が印象的でした。私たち教員も、その翼を支える風の一部になれたことを嬉しく思います。これからのさらなる飛躍を願っています。

なお、両名の発表にあたっては、本番に向けて場に慣れることを目的に、事前に趙も含めた教員4名の前で発表練習を行いました。経済学部足立教授、高山准教授、佐野講師にはご多忙の中、丁寧なご助言をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



(写真左から2人目は国際センターの趙教員、右から1人目は経済学部国際経済学科の佐野先生)